

第44号
2018年12月1日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>

題字 尾崎悌之助

鳥取こども学園 学園だより



丁寧に寄り添い続ける

鳥取こども学園乳児部 院長 竹中成代



日常の生活が送れるありがたさ

今年(2018年)7月の豪雨や9月の北海道の地震は、日本各地で大きな被害をもたらしました。今もなお被災地では復旧に向けた活動が行われています。また、台風24号により鳥取市内にあります児童養護施設青谷こども学園のみなさんは床上浸水の被害に遭われました。

幸い、当法人には被害はありませんが、身近なところが被害を受けられたことで、日常の生活を継続することができるといふあたりが、たさをつくづく痛感いたしました。

いつ何時、何処で、どんな災害が起こるか分からない今日この頃です。防災委員会メンバーを中心とした防災訓練を毎月実施してはいますが、職員と子どもたち一人ひとりの防災に対する意識をより一層高めると共に災害時に対する備えを十分に行う必要を感じます。事業継続計画の整備、見直しを定期的に行い、子どもたちの身の安全といつも通りの生活を守ることができるよう備えたいと思います。

被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。



三つ子の魂百まで

先日、乳児院を巣立った女の子と久しぶりに会いました。彼女の通う学校の学校祭へご家族から誘って頂き出かけました。舞台でも良い表情で生きいきと表現したり、模擬店でお客さんをおもてなししたり、おしゃべりが上手になり会話が弾んだり、とても成長した姿にうろつくと目頭が熱くなりました。

お昼に彼女と一緒にご飯を食べた際、最初は上手に食べお姉ちゃんになった姿を見せてくれたのですが、時間が経つにつれて幼かった頃を思い出したのか、私の膝にすっぽりと入り込み身を委ねていました。こちらとしてもとても懐かしい感触でついつい抱え込み、お互いになんとも言えぬ心地よい時を過ごしました。

何年経つても感覚は潜在的に覚えていて、共に過ごした頃の心地よい感覚が今もお互いのどこかに残っていたのでしよう。大人はお世話と称して子どもに関わっているのですが、実は子どもから癒やされ元気をもたらしていることを改めて感じた出来事でした。

時が経つにつれて幼い頃の記憶は薄れていくものですが、感覚はいつまでも残るもので、心の奥深いところに心地よい種を蒔くことは出来るのかなと思います。人に大

切にされた感覚が自分を大切に、人をも大切にすることが出来るのだらうなとも思っています。

育ちを繋ぐ

乳児部では0歳からおおむね3歳までの乳幼児をお預かりしています。人として生まれ、育ち、生きていくための素地作りに非常に影響する大事な時期のお子さんに関わらせて頂いています。我々乳児部職員にはとても重要な役割が課せられています。

乳児部のもう一つの役割として、心の奥に蒔いた種を次なる養育者へ繋ぐという使命があります。のちに芽を出し茎を太くしつぼみとなり花開くよう、先を見据えて今を大切に育んで育んだ育ちを次へ繋ぐ。そのためには子どもが安心して巣立つことができるよう、次なる養育者とは心を通わせお互いに信頼し合える関係性を築くことが必要不可欠です。そしてその先も関係が切れることなく繋がりが続け、困った時などいつでも共に悩み考え合うなど寄り添い続ける存在でありたいと思っています。

鳥取こども学園はこれまで時代の流れ、社会、地域のニーズに応え展開してきました。地域貢献と職員の定着を図るため、現在、企業主導型保育所(通常保育・日中、年中無休・一時預かり・夜間含む・病後児保育・平日、日中)「とりっこらんど」の2019年4月開設に向けて準備を進めています。更に「子どもの最善の利益」を求めて展開し続けていきます。

今後みなさまのご理解、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

法人本部

理事長
藤野興一 記

一、「課題と将来像」を全否定する「新ビジョン」に抗し、子どもや保護者と共に「日本型社会的養護」を構築したい。

① 子育て王国鳥取県は2011年7月に国の方針となった「社会的養護の課題と将来像」のモデルとして全国のパイオニア的役割を担ってきた。実践の積み上げの上に、40年近く据え置かれ「岩盤」と言われた「施設最低基準」等を官民一体となって動かしてきたと自負している。

② 「3期15年計画」の二期4年目を迎える「これから」として2017年8月2日、突然国から「新ビジョン」が提起された。

75%などの期限付き数値目標が加わり、「課題と将来像を全否定する欧米並みの施設解体論を展開したのである。以来、社会的養護の現場(厚労省担当を含む)と「新ビジョン」推進派との激しい攻防戦の末、2018年7月6日付で、「都道府県社会的養育推進計画策定要領」等一連の通知が出され、新しい局面を迎えた。

③ しかし、2015年4月から本格実施された「課題と将来像」は国の方針として生きている。22才まで(延長可)の大学在籍者への仕送り、小規模ケアホーム加算を何か所でも認める、家賃補助も実費支給、等々、都道府県等が認めればみな可能となった。現に、全

国の多くの大舎施設が小舎への移行を開始している。

然るに「新ビジョン」は、仕送りはダメ、ユニット小規模ホームはダメで地域小規模か分園しか認めないとか、4ホームしか認めないとか、「課題と将来像」の実績を反古にしようとしており、そうさせてはならない。

「課題と将来像」の到達地平を後退させてはならない。2019年度末までの都道府県推進計画策定におけるこの一年の各都道府県での攻防は極めて重要と言わねばならない。

④ 「課題と将来像」から導かれる「日本型社会的養護」とは、欧米のような施設解体論ではなく、里親支援相談員の配置を設けたように「施設と里親が連携した日本独特の社会的養護」を目指すものである。既に、里親委託率75%などを達成している欧米では、職業化した里親たちによる子どものドリフト(たらいまわし)が横行し、傷つき絶望した若者たちが犯罪や爆破テロに走る者も出ている。「新ビジョン」推進派の面々は、欧米で既に破綻している施設解体論を何の検証もなく押し進めようとしているのである。

⑤ 毎日のように子どもが虐待により殺され続けており、誰にも受け止めてもらえず孤立し絶望した若者による「無差別殺人事件」が繰り返されている。何としてもこれに歯止めを掛けねばならない。よくも生き延びてこどもたどり着いたと思われるような子どもた

ちやその保護者の人間の尊厳を傷つける言動や、懸命に寄り添い支える職員を傷つける行為がなかったのか常に振り返りながら、最も小さくされた人たちと共に歩まねばならない。

⑥ 日本の社会的養護は慈善事業の時代から、制度の有無にかかわらず、目の前の小さくされた生身の子どもたちに寄り添い続けてきたのであり、今一度日本の民間社会事業の原点に立ち帰りたい。鳥取県の場合、平井伸治知事が議会で「新ビジョン」に関わらず鳥取県は独自の推進計画を作ると表明されており、権利行使の主体者としての子どもや若者と共に鳥取県におけるアドボカシーシステムを構築したいと願っている。児童虐待やいじめや貧困や自殺を何としても事前に食い止めること、シヨートステイ・一時保護所を持つた24時間365日稼働のソーシャルワーカー集団としての事業展開が既に形成されつつある中、社会的養護当事者と共に今一歩前に踏み出したい。

⑦ 8月5日までに、一か月間の管理状況を報告すること。全職員に聞き取りを行い昨年の5月に遡って未払いの時間外労働があれば支払うこと。この報告を受け、6月18、19、25、7月3日

の4日間で230名全職員参加の緊急職員会を開催し、7月1日から一か月間の実態調査を行い、この機会に法人として統一した就業時間の把握方法と時間外手当の支払い方法を検討することとし、申告のあった時間外を昨年にかかのぼって支払った。

三、病後児保育併設・法人内職員等保育所「とりっこらんど」を2019年4月開設。

⑧ 法人には230人のスタッフ・職員がいる。施設では子どもたちの共同生活者であり、家に帰れば、良き母であり良き父である。子育てをするスタッフ・職員を24時間年中無休で支える「法人内保育所」「病後児保育所」を作ることとした。

内閣府の「企業主導型保育事業」制度を利用し、地域の方にも利用していただける保育所を目指す。

建物は鳥取みどり園の子育て支援センターの一部改修とその東北角に新築する。9月27日に競争入札の結果(株)懸樋工務店が4,266万円で落札、設計監理費594万円、その他備品等で5千万円を見込んでいる。工事は年度内完成予定。

⑨ 「とりっこらんど」開設のための法人負担金及び運営開始資金2千万円募金にご協力ください。

更に、「新ビジョン」による施設運営等の困難克服のため、何よりも子ども達の夢実現のため、引き続きご支援下さい。

児童養護施設

鳥取子ども学園

さらなる高みをめざし 〜新ブロック体制1年目〜

副園長 山本 隆 史

昨年8月に「新しい社会的養育ビジョン」が公表されてから1年が経ちました。日本で営まれてきた民間社会事業の献身性と専門性を活かした「日本型社会的養護」の構築、いわゆる「社会的養護の課題と将来像」のしつかりとした具現化が必要となっています。現在鳥取県では県と社会的養護関係者等で「鳥取県社会的養育推進計画（仮称）」の策定に取り組んでいます。新ビジョンの求めるものにそのまま当てはめるのではなく、子ども・家庭支援にどのように取り組んでいくのか、施設小規模化、里親支援等先駆的な取り組みを行っている鳥取県の推進計画が全国モデルとなるべく叡智を出し合い、真摯に検討したものを策定していきます。

さて、鳥取子ども学園では本園が小規模グループケアの6ホーム、地域小規模児童養護施設が3ホームと施設小規模化

は完了しています。そのような中で今後の私たちが目指すものの1つとしてソーシャルワーク機能を高め地域児童福祉の拠点となる必要があります。そのためには施設内部でも従来通り各ホームの独自性は保ちつつも、連携強化を図る必要性が考えられました。昨年度までは、本園は各2ホームでブロック体制と地域小規模児童養護施設3ホームのブロック体制、計4ブロック体制を取っておりましたが、今年から本園2ホームと地域小規模児童養護施設1ホームの3ホームでブロック体制の3ブロック体制を取ることとしました。それぞれにベテラン保育士を専任のブロック長として配置し、各ブロックごとの連携はもちろんスーパービジョンと職員育成の強化を目指しています。この体制を開始し半年、まだまだ試行錯誤の状況もありますが、ブロック長会、ホーム長会で評価しつつ、さらなる高みに達するよう鋭意努力してまいります。

今回の学園だよりでは各ブロックのトピックを紹介いたします。



頼もしい・ゆかいな仲間

ふじ・ひまわり・かつらぎの家

ブロック長 前田 佳寿美

平成30年4月から新体制の1つとして、ふじ・ひまわり・かつらぎの家（地域小規模児童養護施設・市内桂木の1軒家）のブロック体制・チームがあります。私は、そのブロック長として、子どもたちの支援というより、どちらかというと、職員同士が気持ちよく仕事が出来ているかを考えます。その先に子どもたちの支援があると思います。

個性豊かな人材で、子どもたちを愛してやまない仲間です。働き方改革が叫ばれる昨今、熱いエネルギーを持ち働いている仲間です。

子どもたちの生活が、私たちの仕事場です。これって、なかなか難しいです。中心はもちろん、子どもです。「おはよう。」「いただきます。」「いってらっしゃい。」「ただいま。」「おかえり。」「おやすみ。」「が当たり前にあくれる日々を大切にします。その中で、イベント的な内容を盛り込む事があります。その時は、子どもより、いや、子ども以上に盛り上がって楽しめます。大人が楽しんでる姿を見て『大人って大笑いして大騒ぎして楽しそう。』って思ってくれたらシメ

シメです。そのような場面、機会を作れるのが、この仲間たちです。さあこれから何をしようかなと、いろいろ考えるのが楽しいのです。（実現しなくても）

『また明日』と次の日につながる望みを持てる子ども&職員でありますように。

新体制スタート

たんぼぼ・さくら・あかり

ブロック長 田中 敦子

たんぼぼホーム長をウン十年……3年前からたんぼぼ・さくらホームのブロックを行き来するようになりました。

今年是新体制となり地域小規模養護施設ごとの家あかりがブロックに加わり半年が過ぎました。そして大きなトピックスが……。あかりホーム長坂口さんにバトンタッチします。

「8月に、5年半生活をした地域から引っ越しをして鳥取子ども学園と同じ小中学校区に引っ越してきました。暮らす環境が変わることは子どもたちにとってはとても大きな事です。住み慣れた環境から、知らない土地での生活になります。子どもたちには丁寧に説明と事前の見学をしてなんとか了解してもらおうと頑張りました。新しい家は古民家のように子ども

もたちから「下口が出てきそう」と嬉しそうに家中を探検していました。4ヶ月経った今、ここでの生活にも少しずつ慣れ自分たちの家として、この家で生活の価値を見つけてよつとしていきます。」

坂口さんから「引越しの大きなトピックスを届けてもらいました。学園から大股百歩の距離になったので、密なご近所つき合いをしていこうと思います。ご近所プラス学園2ホームのよいパイプ役になれるよう、大人にも子どもにも保護者にも寄り添い、共に悩み、考え、笑い合っていけるよう支え合っていきたいです。」

人と人が繋がっていく事……

ひろこども学舎 ちびっこ

ブロック長 中村 美智子

18年前に縁があり私はこども学園で働いています。働き始めた時の第一印象としてこども学園という場所に癒されていた感覚を今でも覚えています。

私自身、ホームでの経験をさせていただき、ブロック長という役割を与えられました。本園以外に3つの地域小規模児童養護施設があります。本園と地域小規模の家を繋いでいく体制づくりです。4

月当初、私は、「おばあちゃんみたいな存在になれたらいいなあ」とブロックの職員に伝えました。主役は、子ども。その子どもたちを支えているホーム職員を支える事が出来たらいいなあと考えています。

子どもにとって大切な事。それは、職員が変わらずその場所に居る事。そう伝えられてきました。その言葉を念頭に「私に何が出来るかな」を言葉に日々過ごしています。私自身もそうです。周りの人たちに助けられながら育休後も学園でお仕事をさせていただくことができています。

ホーム職員は、それぞれがどうしたらブロック体制が整っていくのか考えています。この夏には、こども、大人総勢30



名程で海水浴・バーベキューを行いました。日常では、いろどりのこどもが本園へ遊びに来たりします。そんな中で人と人が繋がっていく……人が増えて集まればプラスな面とマイナスな面と両方できます。マイナスな面は、プラスに変えていく、考え方の変換です。そしてチームに良い気が流れていく。ブロックというチーム運営をどのようにしたら円滑にいくのかチームのみなさんと共に考え日々学びます。まだまだチームを作っている真っ最中ではありますが、これからも進化し続けていく鳥取こども学園に添いながら子どもたち・ホーム職員と一緒に家づくりをしていきたいと思えます。子どもたちの未来へ希望をもって……地域の皆様、鳥取こども学園に携わって下さる皆様へ感謝の思いを忘れず、私自身、日々精進して参りたいと思えます。

乳児院
鳥取こども学園乳児部

保育士 竹森 愛里

鳥取こども学園の乳児院では、3歳児・2歳児・0歳児のこどもが過ごして

います。職員も個性豊かで毎日にぎやかに楽しく生活しています。毎日一緒に生活をしていると、苗字は違ってもきょうだいのように時には一緒に笑いあって、時には喧嘩して、と過ごすうちにだんだんと似てくる場面が不思議とみられます。

ある3歳の男の子は揚げ物が大好きです。しかし、その食べ方は衣をはがして食べ、中身はきれいに残してしまったりうその子ならではの食べ方をします。1つ下の男の子はそんな食べ方を毎日見ながらも、揚げ物は衣と身を分けることなくそのまま食べていました。そんなある日、いつものように揚げ物の衣を上手に取って、おいしそうに食べていた3歳の男の子。職員は「また衣だけ食べるの？中身もおいしいよ」と声を掛け、いつもと変わらない食事風景を過ごしていました。ふと職員が2歳の男の子のお皿を見るときれいに揚げ物の衣のみ食べられた中身の具が残っていました。思わず「真似してるの？」と聞くと「こっぴどい笑で、いつもその食べ方をしている子も」「いっしょだなあ」と笑っていました。大人からすれば、残さず食べなさいと言いたいくらいですが、毎日を通じているこの子たちの関係の深さ、慕う姿にほっこり。「別々でもいっしょに中身も食べてね

そう言う2人は「せーの」と一緒に食べました。

また、ある日は3歳の男の子と2歳の男の子と一緒に風呂に入。汗を流して、脱衣所で着替えをしていると2歳の男の子が3歳の男の子に「にいに〜」と抱きついて甘える姿がありました。3歳の男の子は得意げに「みちみち〜」とお兄さんになりきって応えます。職員が「お兄ちゃんなの?」と聞くと「うんーお兄さんがまもる!」と職員は悪役に。いつもの何倍も3歳の男の子は強くたくましく職員と戦いごっこを楽しみます。

きょうだいの絆、友達の絆と一緒に過ごして、一緒に笑って、一緒に泣いて…少しづつ形成されていきます。この子た



ちは一緒に過ごす時間の多い環境できょうだいのように感じるほどじっくりかわりあっているのだろつと感じるととても嬉しくなりました。互いに刺激し合い、支え合い、そして心も身体もたくましく育っています。そんな子どもたちの今を預かっている私たちなので一瞬を大切に、この子たちのやりたいこと、できることを支えていければと思います。

児童心理治療施設
鳥取子ども学園希望館

緩やかなるもの学園にあり

館長 花川 治 応

9月中旬鳥取市で開催された西日本児童養護施設職員セミナーにおいて児童精神科医の星野崇啓先生の基調講演をお聞きし、人には落ち着くための心理的距離を保てる空間が大切なのだと思った。

セミナー終了後に大勢の施設見学者を案内するため敷地内を回っている時、この法人の自然風景そのものが落ち着く雰囲気を感じ出しているように改めて気がついた。

この地で脈々と生き続けた証拠である大きな樹木群。その樹々がもたらす木陰。木陰から見下ろす穏やかな川の流れ。時にヌートリアが現れたりするが…。正面玄関側にある両側から川を覆うような見事な桜並木。全てが穏やかな自然に柔らかに抱かれるように感じさせてくれている。

市街地にありながら穏やかな安心した雰囲気を持つ独特の空間。その中で思いをもって子どもたちと生活を営む大人たちとの世界がある。

大人の想いだけでなく、この自然環境があることが子ども達を癒やしながら穏やかに育んでくれていると強く感じている。そして我々大人も癒やされているのである。

今年も希望館に何人かの子どもたちがやってきた。

ようやくたどり着いた希望館が、安心と再生の場所となることを願っている。



人間は、誰でも関心のないものや分からないものは一つにくくりたがるようだ。

て物事を比較判断するのが一番わかりやすく楽だからだろつ。

やってきた子どもたちは最初、我々大人を「あっち」側として警戒する。今までの苦い体験からすれば当然だろつ。

それでも一緒に生活する中で、少しずつあきらめに近いような、仕方ない感じのいい加減に付き合ってくれる。漢字にする「良い加減」なのだ。

「マスト。〜ねば、ならな」という緊張感ばかりの状態から、少し緩んだ中間を見つめることなのかもしれない。そして、中間を探せることは、大人に近づくことなのだろうと思う。

「いい加減」と「悪い加減」ってどつ違つたのろつ?」

「あいまろ」。その中ほどちょうど力みの抜けたのが「いい加減」。なんてのはいかがだろつ?」

子どもとスタッフは必死に「良い加減」を探しながら日々を過ごしている。そして、いい加減な館長が、いい加減な理屈をつけて、緩やかな自然と共に今日もそばにいる。

私の気に入っている詩を紹介してこの稿を閉める。

「成功とは」

by Ralph Waldo Emerson

たくさん笑うこと
 知性のある人から尊敬を得ること
 子どもたちから好かれること
 誠実に批評してくれる人に評価されること
 見せかけの友人の裏切りに耐えること
 美しいものを楽しむこと
 人の良いところを見つけてやること
 世の中の小さな良い事を残していくこと
 それは元気な子どもでも庭の一角でも
 社会状況の改善でも良い
 そして貴方が生きていたことによつて
 一人でも生きるのが楽になった人が
 いると知ること
 それが成功したところのことなのです

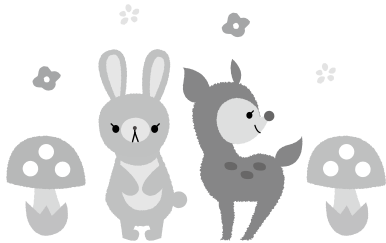
新任職員のご自己紹介



通所分校分教室セラピスト

諏訪 雅幸

9月より鳥取子ども学園希望館でセラピストとしてお世話になっております。諏訪雅幸です。むむっ！一見、怖い感じ。お気に入りのサングラスとスーツを着ればもっと怖い感じ。と思いきや、おひつじ座でうさぎ年、動物占いはこじかです。何故か道をよく尋ねられます。児童福祉と病院臨床を主に経験してきました。まだまだ分からないことがあります。皆さんと一緒に子どもたちの成長と変化を促していきたいと思えます。



保育所

鳥取みどり園

食べるの大好きな子どもに

調理師 谷本 眞奈

阪神大震災の被災経験を基に食の視点から防災を啓発したり、NHK教育テレビの子ども向け人気料理番組「ひとりできるもん！」を監修された食育料理研究家の坂本廣子先生が今年の6月おたくなになりました。坂本先生は笑顔が素敵な先生でした。

五感で学ぶ子どもの料理教室「キッズキッチン」を開催し、子ども主体で料理を作ったり、小さな子どもにも包丁を持たせ、豆腐の手の上切りを経験させたりと様々な活動をさせていただきました。

もちろんNHK教育テレビの「ひとりできるもん！」は放送開始当時、舞ちゃんという小さな女の子が手際よく調理を進め、登場キャラクターとのやりとりは大人が見ても楽しくて料理をしてみたいないあど誰もが感じた番組だったと思います。

「こんな風に食べる楽しみをみどり園の子ども達に伝えたい……！」



そこで見どり園では食べ物に興味をもってもらおうと、旬の食べ物を知らう〜という取り組みが始まりました。福井栄養士と私は旬の食べ物に変身し各クラスをまわります。そこで旬の食べ物を詳しく伝えたり、年齢に合わせたクイズを出題したり、実物を見て触ってみたり、クンクン匂いを嗅いでみたりと本当に短い時間ではありますが子どもに人気の時間。クラスに私達が登場すると歓声があがるくらい楽しい時間です。

「今日、給食の先生が秋刀魚になってたで。」

「秋刀魚って秋が一番おいしいんだって。」

「また、秋刀魚が食べたいないあ。」

そうして家に帰った子ども達がお家の方に報告し、関心をもってくれたら嬉しいです。

「食べることは生きること」

「食べるの大好き」

子どもの頃からいろいろな食材や料理に親しみを持ってもらい、食べることに楽しさやバランスよく食べることの大切さを伝えられるように私達はこれから美味しい給食作りに励んでいきたいと思っています。

そしていつかは坂本廣子先生のように笑顔の素敵なお母さん、給食の先生になれたらいいなあと思う今日この頃です。



子育て支援センターに遊びにきませんか？

保育士 園田 紗希

わくわく子育て支援センターは、平成9年に開設し、今年で21年目を迎えました。月曜日から金曜日の9時30分から15時30分までの間、就学前までのお子さんと保護者の方が自由に遊べるふれあいルームを開放しているほか、誕生会や身体測定、ボランティアグループぞうさんの会によるおはなし会などを毎月行っています。また、育児講座や親子教室では、ベビーマッサージや離乳食講座、ミニ運動会など毎月内容を変えて子育ての知識を提供したり、親子で一緒にする活動を通して子育ての楽しさを体験したりできるような企画を考えています。

ふれあいルームには、1日平均7〜8組程度の親子が遊びに来られます。初めて来られる時は緊張した様子の方が多いですが、顔馴染みのお母さんが来てお母さん同士もおしゃべりに花が咲くようになります。支援センターが催しの場となり、子育ての仲間が出来ることで、「子育てが楽しくなった」と言ってくださるお母さんもおられ、私たちもうれしく思っています。

これからも、支援センターが保護者同士の出会いの場となり、子育てが楽しいと思ってもらえるようなお手伝いをしていきたいと思っています。友だちの家に遊びに行くような、そんな気軽な気持ちで、子育て支援センターに遊びに来ませんか？素敵な出会いが待っていますよ！



ぞうさんの会によるおはなし会



育児講座「ベビーマッサージ」

我が儘なこの診療スタイルをお許し下さい

院長 川口 孝一

診療所
JJJNの発達クリニック

10月、第59回日本児童青年精神医学会に行ってきました。新しい知見を等勉強になったのですが、同時に落ち込みました。私自身の医師としての身の丈の低さは以前より自覚はしていましたが、この度改めて身の丈が縮んでしまっている事に気付かされました。

日頃より、生物ー心理ー社会的な側面からの児童福祉施設内での包括的な精神保健・診療を行って来たつもりでしたが、医学の日進月歩に付いて行けておらず、すべてが中途半端であると思いが知らされました。私の能力の問題もあります。が、実際日々の診療、書類作成、支援会議に追われ、新しい知見を入れていく時間がありません。勿論何もしていない訳ではなく、活字アレルギーの私は書籍で学ぶことが苦手なので、研修会や講演会に出来るだけ参加してきました。それでも追い付いていません。最先端の医療を

提供出来ておらず、患者さんや子どもたちとそのご家族、職員の皆さんに申し訳なく思います。当クリニックには、大きな病院の様な医療設備もなく、せいぜい血液検査を外注でさせてもらうくらいです。脳波検査等も他の医療機関にお願いしておりますし、検査だけでなく、合併身体疾患の診断治療や入院依頼も他の医療機関にお願いしています（本来クリニックで診させて頂かなければならない当法人施設の子どもたちも他院で診て頂いている現状もあります）。幸いそのような依頼を快く受けて下さる理解ある医療機関さんばかりなので本当に助かっています。本当は多くの患者さんを診させて頂いて（今がしんどい初診の患者さんや急性再燃増悪された患者さんを直に診させて頂けた方が、患者さんも助かるのかもしれませんが）、収入をもっと上げれば、医療設備を整えたり、クリニックのスタッフを増やせたり、当法人本部の施設や事業に活用できるのでしょうが、いつの間にかその様なスタイルの診療が出来なくなってしまうました。無意味だと思われる様な無駄な時間を患者さんや子どもたち、患者さんのご家族と過ごす事に意味があると思っており、今のスタイルでの診療を棄てられずにいます。更に、目の前の当法人関連施設の子どもたちに

もっと関わらせてもらわなければならぬと思うようになり、理事長の許可を得て10月より初診受付をしばらくストップさせて頂いています（今現在診させて頂いている方はそのまま継続して診させて頂きますが）。そのため、地域医療や各所に更なるご迷惑をお掛けしますが、この我が儘をしばらくお許し下さい。

児童家庭支援センター
「子ども家庭支援センター」希望館

仕事ってぼくの赤い風船
より大事なの？

副所長 岸 田 有 加

子育ての相談をつかがっていると、一生懸命子どものことを考えておられるからこそ、何を考えているか分からない、取扱説明書が欲しい」といような思いを耳にします。

私達も以前は子どもだったことを思うと、その頃の自分が何を感じていたかがヒントになると思います。ですが、毎日今することに追われ、心に余裕もなくなり、あつという間に時が経ち、昔のこと

など考えることなく忘れてしまっています。大人になるからこそ、わかることが増えて、考えが固くなりますし、いろいろと社会的な責任を負わなければならぬくなります。そうなる可不条理なことを「仕方ない」で片付けるようになり、その「仕方ない」を子どもにも納得してもらいたい思いが無意識に顔を出しているように思います。

最近「プーと大人になった僕」という映画を見ました。映画なんてあまり見ないのですが、テレビで流れてきた「仕事ってぼくの赤い風船より大事なの？」というセリフに心を惹かれ気づいたら映画館に足を運び終始涙を流していました。

とても簡単に紹介すると、大人になってしまった主人公と、子どもの頃一緒に遊んでいたままのプーとの再会を通して、何が大切なかを考えさせられるストーリーです。

確かに感じていた昔の感覚が、大人になつていくことで、鈍感になつてしまつたと実感。でも「君は君でしょ」というプーのセリフに、私達も子ども頃の持つていた純粋な部分は何も変わらずに大事に持つていて忘れてしまっているだけじゃないかと考えさせられました。

わからないことでも理解したいという

思いや、分かっていたいと思つて相手の心に耳を傾けて自分だったらどんなことを感じていたんだろうと思ひ出せたらいいなと思います。でもそれはこなす日々の生活で考えることは難しく、心にゆとりがあつてこそ出来ることだと思います。

心の整理のお手伝いに子ども家庭支援センター「希望館」を利用して、プーがしている「何もしない」で自分を許すことにトライしてみませんか？



☆子ども家庭支援センター「希望館」では、家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆることの相談に応じています。相談料は無料です。

●電話相談

月曜日～金曜日 朝9時～夜12時

（緊急の場合は、休日、祭日、時間外も24時間対応します）

●来所相談

開所時間 月曜日～金曜日 朝9時～夕方6時

専門の相談員が対応します。

新任職員のご自己紹介



岩成 博子

電話相談コーディネーター

五月から「子ども家庭支援センター」でお世話になっております。

「電話相談コーディネーター」として、相談員の皆様の活動を通して、相談者の心に寄り添い、その悩みが少しでも和らぎ、解決の方向に向かうようお願いしながら働いているところです。

今後相談員の皆様や外部機関との連携を密にし、電話相談活動が円滑に行われるよう励みたいと思います。

ごつぎよろしくお願ひいたします。

里親支援機関

里親支援とつくり

転換期の里親さんの想い

所長 遠藤 信彦

保護を必要とする子どもを預かる取り組みが、大きな転換期を迎えている昨

今、鳥取県の多くの里親さんの意見を集約して政策に反映するため、様々な機会を開いています。先日の集会などは、3時間半という長丁場で丁々発止、けんけんごつごつの意見交換を行いました。

「施設の子どもたちもつと気軽に触れ合い、子育てのトレーニングをした」という意見が多く聞かれます。鳥取県の各施設は、一般家庭とほぼ変わらない小さな生活単位で、家庭的に暮らしています。学校や保育園であれば、日中ワークの一つとして外部の方が参加することもできるでしょうが、一般のおうちの食卓やリビングに、馴染みの無い方が入れ替わり立ち替わり座っていることが無いと同様、子どもたちが日々暮らしている小さな住まいに、外部の方がやすやすと加わることはできません。これには、子どもたちに失礼のないよう、デリケートな気遣いが必要です。「あーわたしの大好きななんとかのおじちゃん！またきたの!」という雰囲気を作るために、ごつすればよいのかは、大きな課題です。

また「子どもが家に来るのを待っている人もいるのに、まだ里親を増やすというのはいかなものか」という意見も聴かれます。1951年に厚生労働省が示した「児童福祉マニュアル」には「ある里

子の為に家庭を選ぶ場合には、多くの点が考慮されなければならない。知的に聡明な子どもは、勇気づけて特性をもっと発展させるような家庭が望ましい。もしつまずきがある子どもなら、このことを理解し、出来るだけのことを行ったりよいと激励できる里親がよい。ある子どもは自分と近い年齢の子ども達と一緒に生活し遊ぶ機会が必要である。また、ある子どもは自分の親からもらえなかった愛情とまなざしを必要とし、里親を独占したいと望むことがあるから、他の子ども

がいない里親に一人だけ預けることがよい」とあります。NHK紅白歌合戦がラジカ放送だった頃に示された思想を、現代もそのまま重んじています。子どもに最も良い家庭を選ぶために、多くの候補里親が、待機していただく必要があるのです。

ある里親さんが「里親がみな『うちはこんなことができるよーうちを必要とする子があればいつでもおいで!』という風におおらかに構え、預かるまでの間、他の里親のおつちの里子や、施設の子どもたちのために役にたてることを探してほしい」と話されました。里親登録される方は「子どもたちの役にたきたい」という一心で、長い研修を受けられ、煩雑な手続きをこなされます。このポラン

タリズムを決してむげにするごとなく、子ども最善の利益の追求に貢献していただく新しいしくみを作ることは、当所の重大な使命だと感じています。

自立援助ホーム

鳥取フレンド

寮長 内藤 直人

鳥取フレンドは10月1日現在、男子4名、女子3名、うち3名が制度外の入居となっております。制度外の入居者は一度自立をしたものの、それぞれ事情があり、生活の立て直しをするために再度、入居したことになります。

毎年、夏の時期は良い意味でも、悪い意味でもホームにとっては変化が多い時期であり、今年もいろいろなことが起きました。その中でも、入居者それぞれが自分のしたいこと、すべきことを考えながら、生活をしてきたのではないかと思っています。中には夏を越えて初秋を迎えるところに、高校(通信制)を卒業した入居者、職業訓練に通い、資格を取得した入居者、十数回チャレンジをして、やっと自動車免許を取得した入居者もあ

り、それぞれの努力が実を結んだ人もいます。

昨年度、途中から自立援助ホームに対する理解がすすみ、22歳の年度末まで、入居が可能になる制度が施行されました。最近の入居の傾向を見てみると①十八歳前後での入居が多い、②障がいのある入居者が増えてきている、③学籍のある入居者が少なからずいる、ということがあり、長期的な支援ができるようになったことはとてもありがたいことです。ただ、さらに④一度、自立をしたケースでも精神的・経済的な理由で生活が破綻するというケースも増えてきており、その場合、相談対応だけでは生命に関わったり、触法行為をする可能性がでてきたりするため、再度、入居をして支援を行なっているのですが、こういったケースはまだ制度外の支援なのでいろいろな課題が残ります。それでも、職員としては、一人で自分なりに努力をしたことをたたえながら、一方で、無理をしていた部分を振り返り、どうやってその部分と付き合っていくのかをより具体的に共同して考えられるので、本来の意味での自立支援はここからのように感じています。また、なによりも、危機的な状況からホームに戻ってくれたことに対して率直に安心した気持ちになれます。

ある歌の歌詞の中に「自分と違つたれの生き方と八毛れず心がささくれ立つ日はこの世界に生まれた意味をぼんやり考えたりもする」という一節があります。おそろく、縁あって我々のもとにやってくる若者はもれなくこんな経験があり、彼らの本質的な部分をクリアに表現しているように思います。ただ、この歌は、いろいろな違いがあることこそが、思いがけない可能性と大きな意味があるのだと続いていきます。自分と人の違いを理解し、他者を尊重したり、折り合いをつけながら共生できること、一方で、人に合わせるだけでなく自分らしく生きられるようになってもらえればと願っています。

最後になりましたが、当ホームの運営にあたり、ご理解、ご協力いただきましたありがとうございます。不十分な点多々ございますが、今後ともよろしくお願い致します。



自立援助ホーム 鳥取スマイル

今、2つの「変」の中に
生きている!!

寮長 田村 崇

日頃より、自立援助ホーム鳥取スマイルの運営に多大なるご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。今、鳥取スマイルでは6名の青少年がそれぞれの自立へ向けて、それぞれの目標を持ち、それぞれの生き辛さを抱えながら毎日を過ごしています。同時に我々鳥取スマイルスタッフ一同も当たり前の日々の中で起こる様々な出来事を通じ、何が大切で何が必要かを毎日自問自答し、それらを共有しながら若者とともに生活しています。当たり前のことですが、一人一人が今を生きています。そしてその今は、2つの大きな「変」の中の今なんです。

的になるといふ期待の一方で、雇用が失われていくというような不安もある、そういう「変」の中です。
2つ目の「変」

今、子どもたちや若者たちは、これからの未来についてポジティブな期待や希望を持って生きていけているのでしょうか。障がい者雇用水増しに関するニュース、企業のデータの改ざんに関するニュースなどから世の中、大人の「変」が浮かび上がって来ます。我々大人は子どもや若者から大切なもの、夢や希望を奪っているんです。

では、これら2つの「変」の中をどう変えていくためには何が必要なのでしょう。1つは、人としての誠実さと人と人との和、すなわち思いやりと優しさを一人一人が持ち、それらを行動に変えていくことだと信じています。そしてもう1つが、個性と価値観の多様性を大切に社会を創り上げることです。それらが我々大人に課せられた使命ではないでしょうか。

1つ目の「変」
昨今、よく耳にするAIなどの科学技術革新により、世の中が大きく変わるものとしていきます。世の中がより便利に機能

誰かが始める、動き出すのを待つのではなく、私たち一人一人ができることをやっつけていく、発信していくことだと思えます。我々大人の多くは、何かがおかしいと気付いているはずですが、気付いてい

ないふりをするのはやめて、小さな一つのアクションから起すしていきませんか！そして子どもたちの明るい未来のために、胸を張って示せる新しい価値観を一緒に創造しませんか！

地域若者サポートステーション事業 とっとり・よなご 若者サポートステーション

キャリアコンサルタント

山田 香子

とっとり若者サポートステーションは11年目、よなご若者サポートステーションは6年目という月日が流れました。

地域に密着した、若者の就労支援に携わる相談支援機関として、活動してきました。毎年感じる事は、サポートステーションの「認知度」です。これまでの活動が、サポートステーションのサービスが必要としている方々に、本当に届いているのだろうかという疑問があります。対策の一つとして、昨年度末から「広報キャンペーン」を展開してきました。それまでは、各関係機関に向けて、情報発信を行う場面が多かったように思います。この度改めて見つめ直した時、

人々がよく利用するであろうスピーカーを中心に、サポステのチラシを配置していただいたり、ポスター掲載を依頼してきました。その影響もあったのか、次第に「サポステのことは、前から気になってきた」とか、「知り合いが利用している」とか、「スピーカーのチラシを見た」などの、生の声が聞かれるようになり、うれしく感じています。

先日、平成30年度若者サポートステーション講演会を西部で開催し、多くの方にご来場いただきました。その際のアンケートには、サポステに対する色々な思いが書かれており、活動をしたことで分かったこと、どのようなニーズがあるのか、新たに把握することが出来たように実感しています。「地域に密着する」といって活動していても、それが万人に共通するわけではないことを痛感する中で、鳥取こども学園が運営する「若者サポートステーション」とは、どのような場所であればいいのか。地域情勢、社会情勢、日々変化している中で、柔軟に、そして、確固たる信念を持ちながら、これからスタッフ全員で考えて、活動をしていきたいと思っています。

今後、地域若者サポートステーション事業の御理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

新任職員のご自己紹介



相談支援員
榎 聖子

9月より、とっとり若者サポートステーションで勤務させて頂いている、榎聖子と申します。

利用される方の心に寄り添っていきけるよう、笑顔忘れず、成長していきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。



キャリアコンサルタント
拜藤 真一

とっとり若者サポートステーションで勤務させて頂いている拜藤真一と申します。

微力ではございますが、就労支援・自立支援に向けて精一杯取り組んでいく所存です。

どうぞよろしくお願ひいたします。



鳥取養育研究所

鳥取養育研究所

事務局長 藤野 謙一

今年の9月にカナダのオンタリオ州トント市に行ってきました。訪問先は、オンタリオ州アドボカシー事務所（子どもアドボカシー機関では世界屈指）、ライオンズ大学（チャイルドユースケアに特化した教育課程では世界屈指）、オンタリオ州チャイルドユースケア協議会（児童福祉等の現場職員の協議会）、オンタリオ州レジデンスストーリーディングユース協議会（日本で言うところと全国児童養護施設協議会に近い）です。アドボカシー事務所には、私自身は4回目の訪問となります。

日本では今、施設を縮小・専門化し、海外に做つて里親偏重に舵をきる「新ビジョン」が国から突然出され、施設現場は大混乱となっています。今回お会いした方々は、児童福祉に関しては世界でトップレベル（来日し、施設現場も見ている）の研究者・実践者です。その方々には言います。「里親の概念（海外では職

業的)、施設概念(日本の施設は様々なことをする。世界に誇れる)が違つのに、何故海外の真似をするのか?」「日本独自の里親と施設が手を組み、子どもが選択できる幅をもたせることに同意する。」「数字で海外レベルにするという発想がナンセンスで、今の方向性がかなり危険であることを実感してきました。



今回の訪問は、研究所として3年間の研究の1年目となります。今回の研究班は、法人理事長の藤野興一、鳥取大学の畑千鶴乃先生、国際コーディネーターの菊池幸工氏(トロント在住)、里親支援専門相談員の清水暁子と私です。研究の目的は、子どものアドボカシー機能を鳥

取県に設立することを目指し、そのための実践ガイドラインを策定することです。社会的養護下で生活する子どもたちが自身が権利の主体者となり、その声が個人レベル・都道府県レベル・国レベル等の大人に届き、共に問題解決をしていくことが必要です。また、人材育成についても模索していきます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



障がい福祉サービス事業 はまむら作業所

休日レクリエーション

はまむら作業所は、数年前から、就労の準備以外に、「余暇時間」の充実について試行しています。その背景に、利用者さん全員ではありませんが、休日の過ごし方、休憩の時間の過ごし方が実は苦手である、企業実習等の休憩時間が過ぎせない、自分の時間を自分なりに過ごす事が苦手などの相談があった事から始まります。そこで、月に1回程度、「開所日」

を設け、参加希望の者を集い活動しています。その日は、スタッフも、利用者さんも、時には地域ボランティアさんも、活動します。普段の作業とは違い、「本気で楽しむ」をモットーに過ごします。始めは少なかつた参加者も、少しずつ人が増え、そして、次第に「次は何する?」「から」「次は〇〇がしたい」に変化していった事は大きな進歩と思っております。具体的な実績としては、事業所の近隣で開かれている祭りや地域イベントに参加(気高付近、市内その他)、みそ作り、近隣の海などで魚釣り、紙工房での

創作活動、事業所内でのもんじゃ焼きパーティーやサンマ焼きパーティー、刑務所での矯正展参加、果実園での収穫体験と、地域内外で多種多様な活動をしてきました。参加しているメンバーは、スタッフ利用者さんを含め年齢層が10代から70代と幅広く、普段の作業中には見ない表情や様子が見られたり、会話が出来たり、また、利用者さんの活き活きとした場面に出会えたり、事業所として素晴らしい時間の共有になっています。

このように余暇活動参加は、利用者さんのそれぞれの興味のある事、関心のある事は異なりますが、時々職場の仲間達と集い、他者と仕事外の付き合い・時間の共有を通して、協調性がはぐくまれたり、地域に出ていくきっかけになったり、時に普段の生活のリスタートのきっかけになったりしています。

もちろん、日々の就労活動・訓練は皆で頑張つて参りますが、これからも、利用者さんの意向を聞いて、余暇活動も充実させたいと思います。そして利用者さん自身の事業所外時間の活動自立・充実、自分で趣味や興味のある事を見つけてきつかけを作りたいと思います。将来的には、小旅行も計画していきたいと思っておりますが、もう少し時間が必要です。

退所児童等アフターケア事業

ひだまり

いつも皆様には、ひだまりへのご支援・ご協力・励ましをいただきまして本当にありがとうございます。ひだまりは、鳥取県内の児童養護施設等を退所した方や、退所を控えた児童へ生活支援・就労支援・自立研修開催・施設出張訪問（キャリアカウンセリング）、協力企業へ職場見学・体験にむけた調整・同行等を行っています。

今回は、今年度に入ってからを振り返るとともに、今後の取り組みについて紹介させていただきます。

【5月】

毎年恒例、鳥取子ども学園のこども祭りに『ぶちパンケーキ』の屋台を出店しました。おかげさまで大好評！予定数を上回る販売数！OGの協力もありとても助かりました。

【7月】

鳥取県内の入所中の高校生以上を対象に『上手にお金と付き合おう！』ver.2』を開催しました。以前も好評だった内容を少し改良し、退所後の生活に向けた生活費の計算をチラシを見ながら算出、退所までのアルバイト貯金計画を考へてみる、自分の考えや要望の伝え方を学びました。やはり、ワークがあると研修も楽しいようで参加者の感想には、実際に自分で電卓を使って計算できたことで気がついたことや驚きがあったようです。

【8月】

ひだまりの協力企業である老舗旅館 朝野家様（兵庫県湯村温泉）にご協力いただき、高校生1名の客室清掃の職場見学・職場体験を実施しました。指導してくださった担当者からは『初めはゆっく



自立研修 お金と上手に付き合おう ver.2

りだっただけ、だんだん早くなった。やってみたいことを積極的にし、できるようになっていくと意欲も湧くし仕事もできるよくなると思う。』との言葉をいただいています。



ひだまり OB/OG 交流会



職場体験（客室清掃）老舗旅館 朝野家様

【9月】

OB・OGとのひだまり交流会『ボウリング大会』を開催しました。チーム対抗で、それぞれのチームの平均点で順位を決めました。景品は、1人暮らしで役立つ日用品を準備。

施設を退所して、働き出すと、適度に気分転換をすること、プライベートをどういう風に過ごすかも課題になってくるように感じます。こういった集まりに参加してみると同じように悩み迷った経験を聞くことができたり、意外にも悩んでいたこと迷っていたこと解決策が見つかることもあるかもしれません。

【10月】

第2回ひだまり自立研修はたらくゼンパイトークショーを開催。

対象は、鳥取県内の施設入所中の中高生、自立援助ホーム入寮生でした。講師に、元プロボクシング選手OBにお願いしました。『一生懸命自分が過ごしていることその姿をみて応援してくれる人ができること』、応援してくれる人のためにも頑張ろうと思っていること、参加者へのメッセージをお話いただき、トークショー後のフリートークタイムでは、トークショーで話題にあがった山陰の銘菓とお茶を飲みながら質問や感想を共有しました。



職場見学 ビッグインファーム様

11月卒業生記念品製作、12月はおちつき大会、1月は第3回自立研修、レインボーズメンバーによる卒業生記念品贈呈も予定しています。

これからも、引き続き、鳥取県内全域を対象に、対処的な生活・就労支援、予防的な生活・就労支援、自立研修開催などを行って参ります。また、時代に応じて支援内容(求められること・できること・したいこと)も変化すると思えます。所長を筆頭に、「変化」・「成長」をしていきたいと思っております。今後とも、応援の程よろしくお願いいたします。

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同(会費納入)していただいた方々は、下記のとおりです。
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (H30.5. 9 ~ H30.11. 7)

敬称略

| 氏 名 | 氏 名 | 氏 名 | 氏 名 |
|-----------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 国 富 一 郎 | 下 石 義 治 | 巻 田 豊 | 勢 木 宇 太 郎 |
| 藤 原 毅 芳 | 入 江 順 子 | 西 村 建 次 | 田 中 和 子 |
| 神 戸 直 登 | 橋 詰 一 枝 | 鳥 取 医 療 器 械 有 限 公 司 代 表 取 締 役 玉 木 淳 二 | 伊 澤 亮 逸 |
| 鳥 取 市 長 官 下 田 哲 也 | 市 谷 年 弘 | 溝 口 好 美 | 田 村 昇 |
| 三 木 康 二 | 野 津 俊 哲 | (株) コ 夕 二 代 表 取 締 役 小 谷 憲 司 | 西 田 淳 |
| 柴 田 和 仁 | 石 谷 充 道 | パ ル ス 電 工 有 限 公 司 | 宮 下 麗 章 |
| 鳥 取 新 生 教 会 | 田 中 俊 道 | 松 本 勲 | 正 林 督 章 |
| 米 田 浩 一 | 西 村 法 律 事 務 所 | 柏 女 靈 峰 | 山 田 敏 明 |
| 杉 森 忠 篤 | (有) 家 電 の き の し た 代 表 取 締 役 木 下 敏 明 | 菊 地 み つ え | 竹 内 和 恵 |
| (有) ワ ー ル ド ワ ン | 春 陽 法 律 事 務 所 弁 護 士 石 田 文 三 | 石 田 晤 玲 | 田 中 義 衛 子 |
| 土 江 浜 代 | (有) 造 園 土 木 植 清 園 大 塚 巖 | 中 村 匡 子 | 鳥 山 玲 子 |
| 田 村 明 子 | 半 田 卓 実 | 船 井 武 彦 | 竹 内 一 昭 |
| 齊 藤 忠 夫 | 中 山 巖 雄 | 医 療 法 人 社 団 乾 医 院 | 中 嶋 哲 一 |
| 市 谷 成 子 | 田 中 耕 自 | (株) ト リ ベ イ | 杉 村 英 子 |
| 水 野 浩 伸 | (株) 千 代 エ ン ジ ニ ア リ ン グ | 菜 の 花 総 合 法 律 事 務 所 | 鳥 取 市 立 城 北 小 学 校 P T A 会 長 前 田 宏 治 |
| 花 木 正 史 | 加 藤 由 紀 | 竹 本 芳 宏 ・ 伸 子 | 日 海 通 信 工 業 (株) |
| 堀 内 苑 生 | 村 上 収 | 伊 藤 継 俊 | 三 宅 町 民 生 児 童 委 員 協 議 会 |
| 尾 崎 祥 彦 | 村 上 悦 子 | 熱 田 洋 子 | 岡 田 武 |
| 北 室 育 子 | 片 村 俊 子 | 松 田 洋 子 | 医 療 法 人 き む ら 耳 鼻 咽 喉 科 医 院 |
| 三 代 国 表 山 西 風 上 洋 館 治 | 前 田 厚 彦 | 坂 出 徹 | 木 本 裕 治 |
| | | | 竹 下 努 |

| 氏 名 | 氏 名 | 氏 名 | 氏 名 |
|-----------------------------|------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 竹 下 敏 子 | (有) 田 畑 商 店 | 小 長 井 賀 與 | 秋 崎 る り 子 |
| 高 橋 昌 文 | サンユー技研工業(株) | 木 村 肇 | 田 中 あ か ね |
| (株) 懸 樋 工 務 店 代表取締役 懸樋義樹 | (株) 丸 十 | 上 嶋 純 子 | キままッズCLUB |
| 茗 荷 京 | (株) 西 原 商 会 中 国 | 小 原 知 子 | 河 口 欣 微 子 |
| 吉 田 由 美 子 | ユーシーシーフーズ(株) | 若 木 太 郎 | 福 島 寛 子 |
| 蔵 本 美 知 子 | サンワールド(株) | (株) ア ベ 鳥 取 堂 | 福 田 美 栄 子 |
| 谷 口 敏 明 | (株) 戸 信 | 山 根 浩 子 | (株) マ ッ ツ ワ 代表取締役 松岡力也 |
| 斎 藤 禎 一 | やまね青果(株) | 中 村 艶 子 | 鳥取南更正保護女性会 会長 小宮山富美子 |
| 玉 木 敏 久 | (株) さんれいフーズ | 草 野 雅 昭 | 渡 邊 哲 次 |
| 天 德 寺 | ワークショップダルマヤ | 山 中 友 子 | 日本画グループ鳥 |
| 鳥 取 鶏 卵 販 売 (株) | (株) トータルエナジーオオタ | 社会福祉法人 あすなろ会 | 木 村 友 子 |
| 藤 井 喜 臣 | アサヒビール(株) | 濱 本 五 十 鈴 | 藤 井 秀 樹 |
| 古 川 潤 一 | 山陰支社 渡辺 崇 | 前 田 悦 子 | 于 景 力 |
| 江 谷 孝 明 | 吉 水 秋 丈 | 岸 田 洋 子 | (株) 岩 田 兼 商 店 |
| 安 本 良 栄 | (有) 大 功 | 小 竹 原 寛 | 白 井 道 子 |
| 伊 達 季 代 子 | (有) 浅 田 左 官 工 業 | 熊 谷 美 憲 | 米 子 信 愛 鍼 治 療 院 典 |
| 端 戸 朋 子 | (株) ジェイエスエス | 林 敬 二 郎 | 松 本 剛 |
| 森 本 五 郎 | サッポロビール(株) | 望 月 彰 | 植 田 望 |
| 安 岡 弘 起 | 尾 崎 か お る | 医療法人 水本クリニック | 谷 本 正 道 |
| 小 竹 多 喜 雄 | 小 谷 祐 司 | 飯 塚 幹 夫 | (株) メモワールイナバ 代表取締役 光浪房夫 |
| (特非) Living in Peace | 田 中 義 人 | 小 嶋 草 次 郎 | 川 口 正 男 |
| 山 下 孝 子 | 青 木 伸 二 | 今 田 澄 枝 | 竹 田 江 海 子 |
| 山田金庫店 山田 弘 | 大 谷 恭 一 | 池 尾 真 理 | 酒 巻 佐 代 子 |
| 柿 坂 紀 武 | 福 寿 み どり | 松 永 陽 明 | 山 本 博 |
| (株) 信 勝 丸 漁 業 代表取締役 山岡寛人 | 植 田 公 平 | 田 村 愛 子 | 社 会 福 祉 法 人 鳥取市社会福祉協議会 |
| 中 本 久 美 子 | 常 田 享 詳 | 鳥 取 市 仏 教 会 | 河 田 瑛 子 |
| 広 谷 笑 子 | 米 谷 食 品 セ ン タ ー | 前 田 俊 和 | 井 上 信 正 |
| 伊 藤 文 代 | はやし社会保険労務士事務所 林 義 雄 | 大雲院地藏盆 子供夜店一同 | 小 谷 和 恵 |
| 鳥取教会愛真幼稚園合同バザー | 齋 藤 明 彦 | 雨 河 一 就 | 鳥 取 ト ヨ ペ ッ ト (株) |
| 吉 田 紀 之 | 栗 本 悦 子 | rococo HATAYAMA 畑 山 洋 子 | 中 島 素 美 |
| (株) イーズ 山本好久 | 磯 田 教 子 | 岡 本 智 鶴 子 | 飯 田 伊 知 郎 |
| フラワーショップヨシダ | 幾 野 裕 昭 | 村 松 幸 枝 | 鳥 取 東 更 生 保 護 女 性 会 会長 原田 幸代 |
| 寿製菓 小笠原 | 鳥 取 更 生 保 護 女 性 会 | (有) 堀 鍍 金 工 業 所 代表取締役 堀いづみ | 入 江 一 枝 |
| お肉の店 匠 | い さ み や 商 店 | 鳥 取 国 府 更 生 保 護 女 性 会 中 嶋 久 恵 | 無 名 氏 |
| 福田会計事務所 金子和光 | 下 園 裕 一 | 浅 野 和 子 | |
| (有) 中 央 企 画 | 西 伯 更 生 保 護 女 性 会 会長 石塚桂子 | 福 田 眞 | |
| 関 西 リ ー ス | 米 本 萬 世 | 南ブロック主任児童委員会 | |
| (株) エヌケーシー | 影 久 眞 智 | | |

物品寄付者 (H30.5.10～H30.11.7)

敬称略

| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
|---------------|-------------------------|-------------|--------------|
| GAUDI(株)湘南平塚店 | 山根 茂 | 鳥取地区BBS会 | パンドラの箱鳥取店 |
| UFO秋里店 | 七理 博幸 | 田中悦子 | 松永隆夫 |
| UFO吉方店 | 福田養蜂場 | 児島 良 | 吉田由美子 |
| UFO安長店 | 中村 艶子 | 中川 麻里 | 中山 政一 |
| UFO扇町店 | 浅村 史郎 | 大雲院 子ども夜店一同 | 岡本 智鶴子 |
| スリーバー鳥取店 | 大和建設(株) 顧問 竹中由紀夫 | 相崎 伸子 | 清水 由紀子 |
| 松下 暢子 | | (株)ヤマネ機材 | サイクルショップフクハマ |
| 海藤 ひろみ | 松島 冷子 | 鳥取 県 | (株)エヌケーシー |
| 石田 信夫 | いさみや商店 | 富本 礼子 | 山本 正明 |
| ガイア 広島駅前 | (株)今井書店 代表取締役会長 中尾行雄 | 手皮 小四郎 | 森 福寺 |
| 谷 口 彬 | | 福田 眞 | 無 名 氏 |

●寄付金は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106
鳥取銀行本店営業部 普通預金 7645611
山陰合同銀行鳥取営業部 普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野 興一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部 普通預金 0405970
口座名義：鳥取こども学園後援会 会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。